



梅田の闇市 (昭和20年頃) (大阪歴史博物館所蔵)



大阪駅前 (昭和30年頃) (大阪歴史博物館所蔵)



梅新交差点から駅前ビル建設予定地 (昭和48年) (大阪歴史博物館所蔵)



梅田御堂筋の起点 (昭和57年頃) (大阪歴史博物館所蔵)



大阪駅前阪神百貨店裏の繊維街 (昭和44年) (大阪歴史博物館所蔵)

## Umeda Sonezaki History



現在のお初天神通り (写真提供: 三井弘子氏)

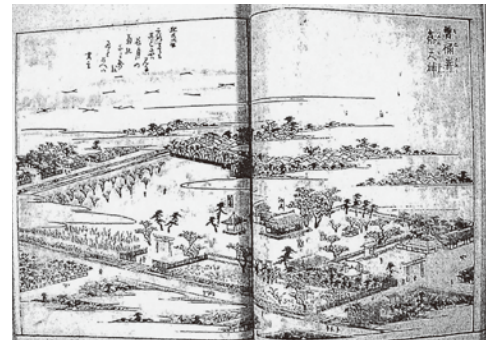


お初天神 (露天神社)

境内にある  
お初・徳兵衛の像



曾根崎周辺の地図 (大正3年)



摂津名所図絵に描かれた露天神の様子

# 梅田・曾根崎物語

梅田・曾根崎に息づく大阪のダイナミズム

留まることなく  
発展し続ける、梅田・曾根崎

ホテルや百貨店、オフィスビルや飲食ビルが集積する、大阪で最も賑やかな、梅田・曾根崎エリア。その商業規模は、東京・新宿駅周辺エリアに続いて全国で2位。もちろん、西日本ではトップを誇ります。江戸時代以前は、辺りは低湿地帯であったため、埋め立てて土地を拓いたことから、当時は「埋田」と呼ばれていました。が、後に「梅田」と縁起のいい字に変わったといわれています。

また、曾根崎と聞けば、近松門左衛門作の「曾根崎心中」を思い浮かべる人も多くいます。江戸時代に起こった心中事件を題材にした人形浄瑠璃ですが、その舞台となったのが、今も曾根崎にある、露天神社(つゆのてんじんしゃ)。物語のヒロイン「お初」にちなんで「お初天神」と呼ばれるようになりました。

明治7年、大阪と神戸を結ぶ鉄道ターミナルとして、大阪駅が開業しました。当初は、現在の堂島付近に建設される予定でしたが、住民の反対により、「町はずれ」にあたる旧曾根崎村に建設されました。そこは現在から西寄りを目指し、駅舎は大阪北郵便局大阪駅前分室(元中央郵便局)の辺りに建てられました。

明治34年、大阪駅はほぼ現在の場所に移転します。さらに、5年後の明治39年には、現在のハービスENT付近に阪神梅田駅が、その4年後の明治43年には、阪急梅田駅が開業し、消費者の利用や需要、貨物量が急激に増加していきました。大正10年には、中之島に大阪市役所が移転し、昭和4年に阪急百貨店が開業するなど、大正から昭和にかけて、このエリアには都市化の波が押し寄せ、戦後もなお、大阪の北玄関として、ますます巨大化の一途をたどりました。

大阪万博(日本万国博覧会)が開催された昭和45年以降、梅田一帯は急速に開発が進みます。まず阪急梅田駅を国鉄(現JR)の北側に移設し、その駅下に新たな商業ゾーン(阪急三番街)が設置されました。同時に、旧阪急梅田駅跡には阪急グランドビル(32番街)や、阪急ターミナルビル(17番街)などの高層ビルが建てられました。それに留まらず、昭和51年には大阪マルビル、昭和58年には大阪駅ターミナルビルなども次々に建設されました。一方、国道2号線の北側でも、昭和45年の駅前第1ビルに次いで、昭和51年から55年にかけて、第2、第3、第4ビルがそれぞれ完成しました。平成に入ると梅田スカイビルを中心とする新梅田シティやオオサカ・ガーデン・シティと呼ばれる西梅田エリアの開発、大阪駅北側に平成25年、オープンしたグランフロント大阪など、大型複合施設のオープンが相次ぎました。

今後も、JR梅田貨物駅の跡地や中之島にある阪大跡地の利用など、大規模な開発が控えている梅田・曾根崎エリアは、ますます日本全国からの熱い注目を浴びることになりそうです。